こまきこども未来館講座運営評価シート

【評価点について】

	【計画品に、	
	S	評価のポイントを意識し取り組み、また改善・発展させ、大きな成果が出ている。
I	А	評価のポイントを意識し取り組み、また改善・発展させている。
	В	評価のポイントを意識し取り組んでいるが、さらなる発展を期待する。
Ī	С	評価のポイントを意識し取り組んでいるが、取り組みを評価できる状況まで至っていない。
Γ	D	

D 評価のかイントの一部文は主じに取り組めていない。				
利用対象児童(0歳~18歳)が日常的に気軽に利用できる環境づくり	自己評価点	A コモジノルトスト・コートスのトングトキーマボフィープログニコング 私	講座運営会議評価	S
・ ・ ・	画制作・視聴、マインクラ 職員は、こどもたちが利 た課題であった中高生き きな曲を流すことのでき 利用者が増えている。 孚 とができる場所だけでな	用状況に気づき、互いに譲り合えるようなサポートに取り組んだ。ま 利用促進策として、2F交流ひろばでのタブレットの利用や自分の好 るシステム(うたリク)、食事の利用を可能にしたことにより、中高生の	れの年齢や興味に応じ 認できた。特に中高生 し、中高生向け講座の	】 乳幼児から中高生まで幅広い年齢層のこどもたちが、それぞた環境で自由に遊び、活動できる環境を整えていることが確の利用促進について、こどもの意見を取り入れることにも注力開催や、交流ひろばの拡張などに繋げ、より気軽に、日常的に所づくりに努めていた点を評価する。
あ - 活動を通じた発達の増進	自己評価点	A	講座運営会議評価	A
	【評価点の理由】		【評価に対するコメント】	
・児童館は、児童と長期的・継続的に関わり、遊びや創作活動などを通じて、児童の発達の増進を図ることが大切。 ・児童の発達の特徴や発達過程を理解し、個人差を踏まえて知識や技術の習得に向けた身体活動や創作活動ができているか。 (参考) 乳幼児期:大人との信頼関係を基にして児童同士の関係をもてるようになっているか児童期:多様で創意工夫が加わった遊びを想像できるようになっているか思春期:自分と仲間に対して信頼と安心を抱けているか	員講座による体験を通し 築しながら、こどもと保護 児童期:日常の中で、こ ター、DJコントローラー、 健続的に制作や活動に 能表期:気軽にギターな ている子がいる。その姿 きている。また「マインク	して発達に応した刺激を提供するだけでなく、保護者と関係性を構 護者に対して安心・安全に過ごせる居場所づくりに努めた。 どもたちの遊び方に応じて、様々な道具・機材(工作道具、3Dプリン 専用アプリなど)を使えるようにしたことで、チャレンジ意欲を持って ほり組んでいた。 など触れられるようにしていることで、来館のたびに繰り返し練習をし に影響を受けて、触ってみようとする子がいるなど関心の連鎖が起 ラフト」などを通じて、こども同士で協力・協働して遊ぶことのできるコ 司士のトラブルも起きることもあるが、職員を介しながら、本人同士で	具や機材の提供・活用 一緒に工作をしている	を期それぞれの発達段階に合わせて活動内容が工夫され、道が充実している。工作エリアにおいて、未就学児親子と職員が姿も見られ、保護者や周囲の大人との信頼関係づくりも進めら応じた配慮されているといえる。
児童が主体的かつ創造的に活動できる環境づくり	自己評価点	A	講座運営会議評価	A
・児童が、自由な発想で工夫して創造できる環境となっているか。 ・児童の自主性や主体性を育む企画となっているか。 ・児童の意見の聴取やその反映をできているか。	を考えて作る「自由工作 はなくこどもたちの好きか 画イベント「こまき冒険スた。 企画から準備・運営 気づきや学びを得ること をプロジェクト化し、市職	P保護者等から提供いただいた素材をもとに、自由にテーマや内容 ド」は、保護者からも「家にはない端材を使える」「決められた内容で なように作れるから良い」と好評である。また、前年に続き、こども参 パライム村」を開催。実行委員は80人、当日参加者も1,000人を超えに至るまで主体的に活動し、コミュニケーションの難しさなど、多くの ができた。また、中高生を対象に未来館の利用に関する意見聴取 战と一緒に実施する他、高校生を対象にR7施行の小牧市こども計画 場」を開催するなど、意見を述べる・反映する場を設けることができ	取り組みを多く実施し、	「こども講師」など、こどもたちの主体性を引き出す、尊重する 実行委員を通じた企画・運営への参画など、主体的な活動機
学びを振り返り成長を実感できる環境づくり	自己評価点	В	講座運営会議評価	A
【評価のポイント】 ・主体的に活動を進めるには、これまでの学びを振り返り、自分を客観視し、次の学びへ繋げる連続性が大切。	りの実施により、挑戦した ている。日常的な来館で	て開催する講座やプロジェクトについては、アンケート取得や振り返たこと・失敗したこと・次にやってみたいことについて考え、振り返っでの学びや体験したことに対する振り返りは、職員の声かけにより実、さらなる職員の資質向上を目指したい。	連続講座等において、が、自己評価にあるよう	】 アンケート取得や振り返りの機会を設けていることは確認できる 5、日常的な来館における学びや体験における振り返りを実施 5等においても振り返りを通じてこども自身の次の目標設定にも
利用者同士の関係を豊かにする交流環境づくり	自己評価点	A	講座運営会議評価	S
・児童館は幅広い年齢の児童が出会い、交流できる場であることが大切。 ・講座や活動において、異年齢児童が一緒に交流しあって取り組める工夫がされているか。	ちの発意で、キッチンカ やうどん屋(自由工作で ける様子も見られている	ー(保護者と職員が共同制作した車)にてお店をオープン。ピザ屋 作ったもの)などをきっかけに、小学生が乳幼児親子に優しく声をか り。また、高校生(eSports部)も中学生に体験会を実施するなど、こど されば様々になっている。	イム村」においても上級 る姿を見ることができ、	
^流 障がいの有無や国籍の違いを越えて児童がお互いの理解を深める取り組み	自己評価点	A	講座運営会議評価	A
・すべての児童を対象とする活動を行う児童館では、様々な児童がお互いに理解を深められる工夫が大切。	イベントを開催。デイサーポートや工作の作り方を	ービスに通うこどもが未来館に来館したこどもに、ゲーム操作のサ 教える挑戦の機会にもなった。また、毎年恒例になった「ハロウィン IP」も開催。外国人サポーターの協力のもと、多文化交流の場になっ	いった交流イベントの気がお互いを理解し合う	・ービスとの連携や「ハロウィンCAMP」や「クリスマスCAMP」と
様々な遊びや体験を通して楽しみながらそれぞれの学びを見つけ、未来リテラシーを育む取り組み	自己評価点	Δ	講座運営会議評価	A
【評価のポイント】 ・目標達成にむけて年度毎に設定された計画を達成できたか。 器 ※目標:実施計画における中長期のVisionを指す	【評価点の理由】 児童厚生員向け研修を もたちの心理的安全性! クショップ・イベントにより ども参画への繋がりとし したほか、こども参画イ	を強化した。遊びやリクリクする気持ちを人口に設計した講座・リー	【評価に対するコメント 職員研修を通した児童 きる環境づくりができて	

保護者にとっても楽しく過ごしやすい環境づくり	自己評価点	A	講座運営会議評価	A
【評価のポイント】 ・保護者同伴で来館する幼児親子などにとっては、一緒に体験する保護者も過ごしやすいことが大切。 ・児童だけでなく、保護者も一緒に楽しむ工夫や、くつろげるよう取り組みがされているか。 保保護	部分の構造を強化しなった。親子で乗り込	車を新造し、より大人数で楽しめるワゴンタイプにした。 木材による基礎たことで耐荷重性が上がり、複数の大人が乗っても十分に耐えるものとみ、空想のドライブを笑顔で楽しむ姿が頻繁に見られた。 自由工作にもに熱心に工作に取り組むこどもが多く、休日などはしばしば机の増	で乗り込みながら笑顔	に楽しめる工夫として、新しい「大きい車」の完成によって親子 でドライブを楽しむ様子が多く確認できた他、自由工作におい 組む姿が見られたことからも、保護者にとっても過ごしやすい、
者保護者同士の交流環境づくり	自己評価点	A	講座運営会議評価	A
【評価のポイント】 ・児童館における保護者同士の交流は、子育ての悩みや喜びを分かち合う大切な機会である。 ・活動への参加だけでなく、保護者同士が交流する機会となるよう意識した運営となっているか。	き、同じ年代の子を育 イベントでは、初対面 するまでには至ってV	・おねんねアート」を企画し、多くの乳幼児親子の参加を得ることがで 育てる保護者同士が、一緒にこどもの成長を喜ぶ機会になった。 前の保護者同士ということもあり、お互いに困りごとなどを積極的に共有 いないが、4Fニコニコひろばの利用促進にも繋がっており、日常的な来 あわせて継続していきたい。	トが、同じ空間でこども かけになっていた点を 常的な来館や職員の	】 の距離感の難しさはあるものの、乳幼児親子を対象としたイベンの成長を一緒に喜び合える場として保護者同士の交流のきっ評価する。引き続き、ニコニコひろばの利用促進にも期待し、日声かけによる継続的なコミュニケーションの積み重ねによって、繋がりをさらに深めていただきたい。
地域との積極的な連携および地域住民が関わりやすい環境づくり	自己評価点	S	講座運営会議評価	S
【評価のポイント】 ・地域ぐるみで一緒により良い児童館を創り上げていくために、地域の団体や企業、住民との良好な連携が大切。 ・地域の団体や企業、住民に積極的に協力や連携を働きかけているか。また、様々な形で連携を行っているか。 ・団体、企業などのグループだけでなく、地域住民や保護者などが個人でも関わりやすい環境となっているか。	【評価点の理由】「交流・体験CAMP」と右肩上がり(2023年月サポーターの登録数業・団体は107社からントで「あそびアイデ」もたちに体験・審査しまた、サポーターだけ	出展の申請も増えており、開催回数も年を追うごとに増え、参加人数も 度 272回/15,913人→2024年度 333回/22,281人)。 も増加(2023年度 177人→2024年度 201人)。パートナーシップ企 128社まで拡大した。地元企業3社と連携し、TechGALAのサイドイベ アチャレンジバトル」と題し、地域の企業で働く大人が考えた遊びをこど てもらうイベントを開催できた。 けでなく、保護者からも工作用の資材提供を受けることが増えているな 々な形で未来館の運営に関わる環境が整いつつある。	【評価に対するコメント 「交流・体験CAMP」な 企業・団体の増加は、 たと考える。特に「あそ 体の未来館への関わり	-
利用促進につながる効果的な広報活動	自己評価点	A	講座運営会議評価	A
【評価のポイント】 ・運営への理解を広め、ここでしかできない活動の魅力の周知は、活動への参加を促すために大切な活動である。 ・効果的な広報活動ができているか。施設周辺地域だけでなく、市域全域(及び市外)に広く広報できているか。 営	市職にて開催するイーにアクセスしやすくな	ただついて、2024年11月より市職との共同運用を開始した。これにより、ベントや講座の告知も開始。未来館の来館層が必要とする情報に格段った。また、講座等の告知にとどまらず、未来館で過ごす来館者の様人に向けた情報など、発信内容の見直しを行った。	て来館する人に向けた	.] ・イベントの情報がより多くの人に届くよう取り組んだ点や、初めた発信など利用者目線での工夫が加わった点は評価する。SNS bせた発信に向けて引き続き見直しを期待する。
児童への関わり	自己評価点	A	講座運営会議評価	A
【評価のポイント】 ・児童館の職員は、活動の援助・指導と共に、個々の児童に対して体調や心理状態に応じた適切な対応が必要。 ・失敗やトラブルに対し、自己肯定感を育み、より良い方向へ成長していけるよう適切な関わりができているか。 ・一人で来館したり、悩みや不安を抱える児童へ適切な関わりができているか。	どもへの対応力の向的に発行し、時事によいでは、 一般で表示している。 一般では、 一をは、	実施するとともに、外部機関の研修にも職員を派遣し、こども理解やこ上に努めている。また、全職員に配布する部内報「チャレンジ」を定期 応じた子育てや教育に関連する記事を通じて、こどもと接する上での知っなぐ取り組みを継続している。また、館内で発生した様々な事象を共らとともに、特にトラブルや問題行動に対しては、その対処方法や日頃について職員間の対話を大切にして随時解決を図っている。 繋がりの取り組みの中で、「自分の居場所」という安心感の下で過ごしいる。人的・時間的な制約もあり、こどもとの関わりに十分な時間をとれば相互の情報共有と引継ぎを積極的に行うことによって補い、安心でき 電館機能の維持に今後も尽力したい。	られていた。日常的な増えているという点も、	・ 外部研修参加によって、職員のこども理解や対応力の向上が図 居場所として「自分の居場所」という安心感を感じているこどもが 児童館としての根本的な意義を体現しているといえる。引き続 !共有や引継ぎを丁寧に行うことで、児童館としての機能を継続